



杉本 和彰議員

今後の町債の 見通しについて

問 (1) 合併特例債が使える事業には制約があるが今後、計画される事業、又、いくら合併特例債を使う計画か。(2) 合併特例債を含む町債の今後の見通しをどのようにお考えか。(3) 基金は、今後どのように変遷していくのか。

答 総額 45 億円の限度額が設定されています。平成 18 年度に県道負担金 1 千 10 万円の起債を行っており 19 年度当初予算で 2 千万円計上している。今後合併特例債の事業として学校建設住宅造成、消防施設道路整備等と考える。基金の取り崩しにあたっては、有効に活用していく

が財政基金や減債基金については、国の厳しい財政難により交付税や国庫支出金の削減が予想される為、今後取り崩すこともやむを得ない事態もある。

財政運営の健全性について

問 (1) 行財政は厳しいのか、余裕があるのか、現状をどのように認識されているか。(2) 一般会計歳出に占める人件費比率、県内ランキングで本町はどの位置にあるのか。(3) 歳出削減とともに、歳入増を図るのは財政健全化の要諦です。そこで法人町民税についてお聞きします。法人町民税は 10 年前比でどう変化しましたか。全体額、均等割額、法人税割額、それぞれどうなっているのか。激減した原因について分析したことがあるのか。もしあれば、その認識はどのようなものか。合併後、法人町民税激減問題を説明し、対策を講じる関係会議を開催

したことがあるのか。あれば、その内容はどうか。(4) 町が発注する物品、物件登録業者数はどれだけありますか。うち町外登録業者は何件か。

答 (1) 国の厳しい財政難により、限られた財源を持つて今後も住民の福祉の向上を図るため健全財政を維持しつつ、より一層の重点的、効率的な事業の実施と財政運営を図っていかなければいけない。(3) 平成 14 年度から 15 年度を比較すると 1 億円程度の減少になっている。17 年度から 18 年度で 3 億 1 千 5 百万程度の減少。対策を講じる関係会議は、開催しておりません。(4) 18 年度の業者数は 5 2 1 ある。金額として 1 億 4 千万円程度町内が約 4 千万円。町外が約 1 億円。

休農地の有効活用にどのような手を打っているのか。(3) 様々な施策について、住民や消費者ニーズ、農地所有者の意向動向は今後の施策判断に重要ですが、農地対策の実態をつかんでおられるのでしょうか。農地所有者の意向調査はあるのでしょうか。(4) 農業委員会の設置目的と現状、その実績について、次に、農業委員会の活動がどのように本町の農業施策、農業振興に生かされているのか。

答 (1) 法人化、企業化、組織化が求められなおも農業生産において厳しい競争を強いられているのも事実である。行政として対策を講じて支援してまいりたい。(2) 農地のパトロールを定期的に行い遊休農地や耕作放棄地があれば、作付けの奨励や貸し借りの斡旋を行っている。(3) 行っていない。(4) 遊休農地などの防止及び解消それから無断転用の防止 農業者年金の加入促進担い手との意見交換など

です。
問 地域力の向上に向けて第三セクター等の経営健全化に向けた取り組みをどのようにお考えか。

答 特徴を生かした新たな取り組みの提案があれば検討し積極的に支援する。利益が出るということであれば、公に公募し場合によっては売却も視野にいれる。



農業委員と認定農業者懇談会「ワークショップ」



小山 暁 議員

和水町明るい選挙の推進について

問 選挙違反で連座制が適用されたり、運動員に報酬を支払ったとして、公職選挙法違反（買収）の罪で起訴・逮捕されるなど全国各地で選挙にまつわる犯罪行為が後をたないが、生涯教育や公民教育の観点から町長はどのような対策が必要と思われるか。

答 （総務課長）3ない運動『贈らない・求めない・受け取らない』の徹底を啓発していきたい。

問 明るい選挙推進協議会では、どのような取り組みを実践してきたのか。

答 （総務課長）昨年は、合併等もあり実際の活動はできていない。

問 今後明るい選挙推進の

計画はあるのかどうか。

答 （総務課長）今後は、選挙時だけでなく、常時啓発活動として取り組んでいきたい。

町民の健康づくり推進対策について

問 町民の健康づくりについて、町長の基本的な考えを伺いたい。

答 まちづくりは人づくりからを基本に、まずは健康づくりが第一であると認識している。

問 町民の健康づくりを積極的に推進するための基本計画は策定されているのか。

答 （健康福祉課長）合併に伴う新町建設計画をはじめ老人保健・介護保険計画さらには次世代育成支援プランに基づきながら健康づくり事業を展開している。

問 旧三加和地区では、町民の健康づくり推進組織として、総合型地域スポーツクラブ『だつでんクラブ』が結成

され、年間を通じて活発な活動が展開されているが、旧菊水地区での組織づくりは、その後どうなっているのか、今後の対策を含めて伺いたい。

答 （教育長）菊水地区はまだ組織の立ち上げまでは至っていない。

問 菊水地区でもこの組織は立ち上げるつもりかどうか再度答弁をお願いしたい。

答 （教育長）できるだけ早く組織づくりを進めていきたい。

和水町農業後継者グループ『みかわAG会』への支援対策について

問 農業後継者グループ『みかわAG会』では、毎年ボランティア活動として、温泉宅配を続けているが、地域住民からは大変喜ばれ、感謝されているが、このような活動に対して、町長はどのような思いで見えておられるのか伺いたい。

答 奉仕的精神があり、積

極的に地域づくりに貢献していただいている組織と受け止めている。

問 AG会への補助金に対して、町長はどのような考えをもっているのか。

答 他団体との状況も考慮し、今後検討を要することもあるかと思っている。

問 農業後継者に対する指導体制の充実と地域リーダーの育成に努めてもらいたいと思うが、町の対応は。

答 認定農業者一三八名を中心に、今後も地域リーダーとして活躍を期待しているし支援体制の充実に努めていきたい。

国際感覚を養う青少年の健全育成について

問 本年度新たに外国語指導助手が着任され、子ども達の英語の授業に携わってられるが、この制度導入によって、どのような教育効果をもたらしてきているのか伺いたい。

答 （教育長）子ども達は異文化に接するよい機会でもあり、自然な形で英語に触れることができ、実践的なコミュニケーション能力が育成できている。

問 これまで韓国公州市との相互交流が図られてきたが今後は次代を担う青少年を公州市へ派遣し、国際色豊かな青少年の健全育成に努めてもらいたいと思うが、事業構想はないか。

答 今後の対応については教育関係者や保護者等の意見を伺いながら、どのように取り組んだらいいのか検討してみたい。



みかわAG会会員による温泉宅配ボランティア活動